



平和ってなに？

～戦争を知って平和を考えよう・児童書版～



7月12日は「宇都宮市平和の日」

7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」です

宇都宮市では、宇都宮空襲があった7月12日を「宇都宮市平和の日」、7月12日から終戦の日の8月15日までを「宇都宮市平和月間」と定め、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えています。みなさんに読んでほしい、平和を考えるための図書のリストを作成しました。どうぞご利用ください。

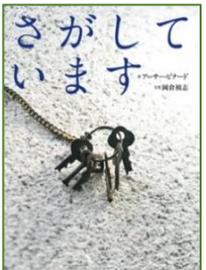
～戦時中のうつのみやを伝える～

	タイトル	忘れないでください 宇都宮空襲の記憶			著者(ちょしゃ)が中学1年生のときに体験した宇都宮空襲(くうしゅう)と、戦後(せんご)のくらしについて書いた本 私たちの住む宇都宮で、戦争はどんな爪あとを残したのか。 もう二度と戦争を起こさないために、今ある平和な暮らしを見つめるために、小林さんの記憶にふれてみよう。
	著者	小林新子/文 相原千草/絵			
	出版社	随想舎			
	分類	K950、090	出版年	2008年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	宇都宮大空襲 一少女の記録			昭和20年7月12日。恐れていた空襲がきた。夜中、アメリカ軍の飛行機がたくさん飛んできて、宇都宮に爆弾(ばくだん)を落としていった。街は焼かれ、500人以上の人が犠牲(ぎせい)になった。 当時、中学1年生だった少女が体験した宇都宮大空襲の記録
	著者	小板橋武/絵・文			
	出版社	随想舎			
	分類	K950、E03/コ	出版年	2007年	
	所蔵館	全館			

～絵本で読む戦争～

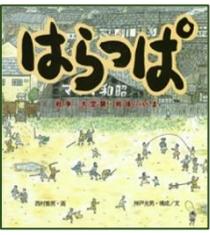
	タイトル	へいわとせんそう			「へいわのボク」と「せんそうのボク」。 何が違って何が同じなんだろう。ページを開いてくらべてみるとみえてくる。 短いことばとイラストで、平和や戦争について考えさせられる1冊
	著者	たにかわしゅんたろう/文 Noritake/絵			
	出版社	ブロンズ新社			
	分類	E04/タ	出版年	2019年	
	所蔵館	全館			

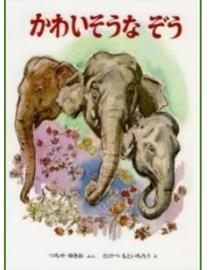
	タイトル	さがしています			「おはよう」「いただきます」「いってきます」 普通(ふつう)の日常(にちじょう)が、これからも続くはずだった未来が、あの日、一瞬でなくなってしまった。 持ち主がいなくなり、あとに残された”もの”たちが、静かにじっとさがしているものとは？
	著者	アーサー・ビナード/作 岡倉禎志/写真			
	出版社	童心社			
	分類	E01/ア	出版年	2012年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	ちいちゃんのかげおくり			<p>「かげおくり」。それはおとうさんが教えてくれた遊び。空襲の夜、ちいちゃんは逃げる途中で家族とはぐれてしまう。ひとりぼっちで「かげおくり」をしながら家族を待つちいちゃんは、やがて空に浮かんで…。</p> <p>小さな女の子の悲しい戦争の物語</p>
	著者	あまんきみこ/作 上野紀子/絵			
	出版社	あかね書房			
	分類	E03/ア	出版年	1982年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	一つの花			<p>食物が不足していた戦争中、いつもおなかをすかせていた幼いゆみこの口ぐせは「一つだけちょうだい」だった。</p> <p>ある日、ゆみこのお父さんも戦争に行くことになった。出発するお父さんが、最後にゆみこにくれたのは、一りんのコスモスの花だった。</p>
	著者	今西祐行/文 鈴木義治/絵			
	出版社	ポプラ社			
	分類	E03/イ	出版年	1975年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	すみれ島			<p>南の小さな島にある学校の真上を、いつからか毎日のように日の丸を付けた飛行機が飛ぶようになった。島に住む子どもたちは、その飛行機が特攻機(とっこうき)だとは知らず、何度も飛行機が学校に飛んできてくれているとよるこんでいたが…。</p> <p>特攻に散った若者たちと小学生との交流を描いた絵本</p>
	著者	今西祐行/文 松永禎郎/絵			
	出版社	偕成社			
	分類	E03/イ	出版年	1991年	
	所蔵館	中央・南・河内			

	タイトル	はらっぱ 戦争・大空襲・戦後…いま			<p>ある町の、あるはらっぱの60年間のうつりかわりがわかる絵本</p> <p>のどかな子どもたちのあそび場だった小さなはらっぱは、やがて戦争によって焼け野原に。それでも、力をあわせて生きていく人々の様子が描かれている。</p>
	著者	神戸光男/構成・文 西村繁男/画			
	出版社	童心社			
	分類	E03/カ	出版年	1997年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	かわいそうなぞう			<p>戦争が激しくなってきた東京。動物園では、空襲によって逃げ出して暴れないよう、動物たちを殺さなくてはならなかった。3頭のぞうにもついにその時がきてしまった。</p> <p>ぞう達の生きようとする姿と、決断(けつだん)をせまられた飼育員達の苦しみ、心に深く残る。</p>
	著者	つちやゆきお/ぶん たけべもといちろう/え			
	出版社	金の星社			
	分類	E03/ツ	出版年	1970年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	まちんと			<p>昭和20年8月6日の朝。ヒロシマのまちは一発の爆弾で人の命も何もかも、一瞬のうちに燃え上がり、くずれおちた。</p> <p>原爆(げんぱく)の苦しみを映し出す色や、静かに語られる言葉からは、平和を切に願うメッセージが強く伝わってくる。</p>
	著者	松谷みよ子/文 司修/絵			
	出版社	偕成社			
	分類	E03/マ	出版年	1983年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	ひろしまのピカ			<p>広島に原爆が投下(とうか)されたのは、1945年8月6日午前8時15分のことだった。</p> <p>みいちゃんは、お父さん、お母さんと一緒に朝ごはんを食べていた。</p> <p>その時、それは突然(とつぜん)やってきた。すさまじい光がつきぬけたかと思うと、何もかもが地獄絵(じごくえ)のようだった。</p>
	著者	丸木俊/作			
	出版社	小峰書店			
	分類	E03/マ	出版年	1980年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	絵本 アンネ・フランク			<p>ユダヤ人のアンネは、ナチスドイツから逃れるため、隠れ家(かくれが)での生活を続けていた。生きたいと願う気持ちやその時に起きたことを書いた日記は、戦後、父の手によって出版され、今でも世界中の人に読まれている。</p>
	著者	ジョセフィーヌ・プール/文 アンジェラ・バレット/絵 片岡しのぶ/訳			
	出版社	あすなろ書房			
	分類	E02/プ	出版年	2005年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	せかいいち うつくしい ぼくの村			<p>内戦(ないせん)が続くアフガニスタンのパグマンという村が舞台になっている。戦争の中でも力強く生きる人々と、自然豊かな美しい村を描(えが)いた絵本</p>
	著者	小林豊/作			
	出版社	ポプラ社			
	分類	E03/コ	出版年	1995年	
	所蔵館	全館			

～本で読む戦争～

	タイトル	絵で読む広島原爆			<p>原爆が落とされる前と後の広島の風景が、細かく描かれている。原爆はどのように作られ、どうして落とされたのかなどについても図や年表で分かりやすく説明している。</p>
	著者	那須正幹/文 西村繁男/絵			
	出版社	福音館書店			
	分類	210/ナ	出版年	1995年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	ガラスのうさぎ			<p>12歳の敏子は東京大空襲で母と妹を失い、さらに父も銃で撃たれ失ってしまう。どこまでも暗闇(くらやみ)のような時代の中を、くじけずに明るく生きていく少女を描いた体験記</p>
	著者	高木敏子/作 武部本一郎/画			
	出版社	金の星社			
	分類	913/タカ	出版年	2000年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	禎子の千羽鶴			<p>2歳のとき広島に原爆が落ち、10年後に原爆症(げんぱくしょう)になった佐々木禎子さん。12歳で亡くなるまで、明るくふるまいながら元気になることを信じて千羽鶴を折り続けた。</p> <p>「原爆の子の像」のモデルとなった禎子さんのお兄さんが書いた、家族の物語</p>
	著者	佐々木雅弘/著			
	出版社	学研パブリッシング(現:学研プラス)			
	分類	913/ササ	出版年	2013年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	ひめゆりの少女たち			昭和20年、アメリカ軍の攻撃が激しくなる沖縄で、女学生による野戦看護隊(やせんかんごたい)「ひめゆり部隊」がつけられた。命の危険にさらされながらも、看護婦として必死に戦った少女たちの身におこった悲劇をとおして、平和の大切さを伝える。
	著者	那須田稔/作			
	出版社	偕成社			
	分類	913/ナス	出版年	1977年	
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	被爆者 60年目のことば			ヒロシマ・ナガサキで被爆してから60年がすぎた。だが、被爆者(ひばくしゃ)達には、今なお深い悲しみが続いている。戦争・平和・生きることの意味を、6人の被爆者の言葉と写真で綴った写真絵本
	著者	会田法行/写真・文			
	出版社	ポプラ社			
	分類	916/ア	出版年	2005年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	いしぶみ 広島二中一年生 全滅の記録			昭和20年8月6日、原爆で亡くなった広島二中1年生の哀しみの記録。当日、清掃作業のため広島市の中心、中島新町の本川土手にいた広島二中の1年生321名と先生4名は、全員が亡くなった。
	著者	広島テレビ放送/編			
	出版社	ポプラ社			
	分類	916/ヒ	出版年	2015年	
	所蔵館	中央・東・河内・上河内			

	タイトル	ハンナのかばん アウシュビッツからのメッセージ			広島県福山市のホロコースト教育資料センターに展示されている、古びた茶色いカバン。カバンの持ち主は13歳で亡くなった、ユダヤ人のハンナ。半世紀後の日本でハンナのカバンとであったふみ子は、ハンナがどんな少女だったのか、ハンナを探す旅を始める。
	著者	カレン・レビン/著 石岡史子/訳			
	出版社	ポプラ社			
	分類	936/レ	出版年	2002年	
	所蔵館	全館			

～戦争と平和のガイドブック～

	タイトル	明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える 絵本からYAまで300			2000年以降に出版された本の中から、子どもの本に関わる人たちが選んだ、戦争や平和を考えるためのブックリスト
	著者	宇野和美、さくまゆみこ他/編著			
	出版社	岩崎書店			
	分類	019/ウ	出版年	2016年	
	所蔵館	中央・東・南			

発行 令和6年7月
 編集・発行 宇都宮市立図書館
 問合せ 宇都宮市立中央図書館
 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57
 電話 028-636-0231